それ!もしかして若年性認知症?

青森県若年性認知症総合支援センター

【若年性認知症とは】

若年性認知症とは、65歳未満で発症した認知症のことを言います。症状や経過としては基本的に高齢者の認知症と変わりはありません。ただ、若年性認知症の発症平均年齢は50代前後が多く、たいていの方は就労されていたり、子育て中であったりと働き盛りであるため、経済面や生活面への影響が大きいです。

また、「認知症は高齢になってからの病気だ」という思い込みから、異変に気付いていても「疲労のせいかも、更年期障害かも」と思い込み、なかなか専門医療機関への受診につながらず、発見が遅れるケースが多く、異変の気づきから受診までに数年かかってしまう場合も多いです。そして、いざ認知症と診断された時には症状が進行しており、自分ひとりでの日常生活の継続が困難になる場合もあります。就労中に早期に受診し早期に発見できれば、周囲の病気への理解を得たうえで配置転換など配慮しながら雇用を継続する等、その人らしい生活を続けることができます。

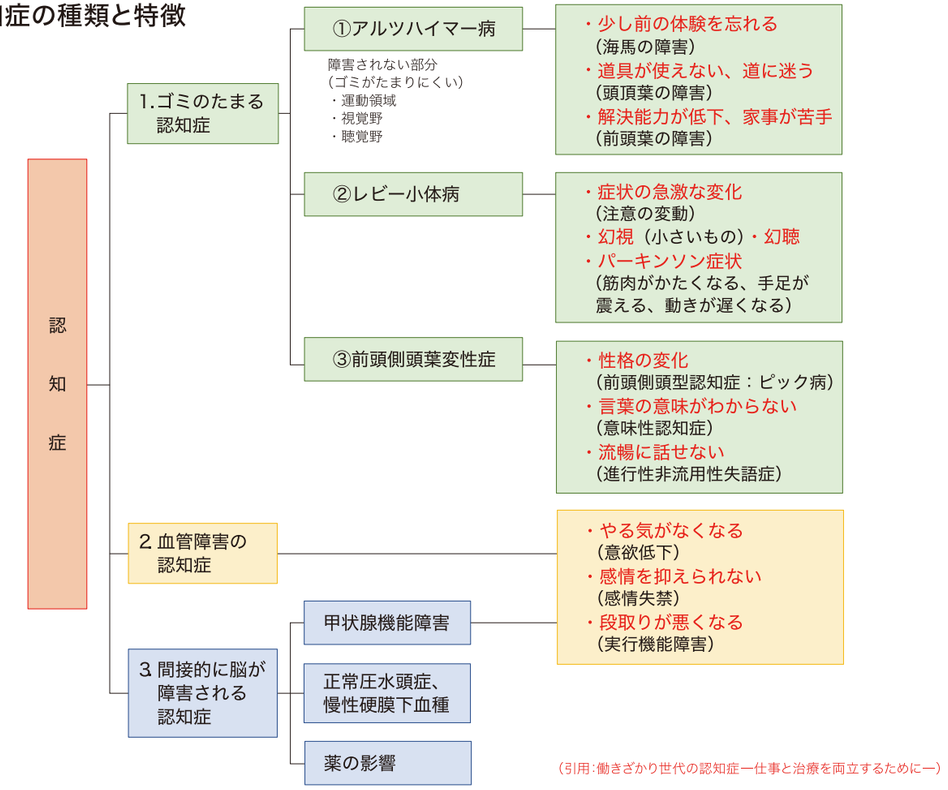
不安なことや体調の変化があれば、まずはかかりつけ医に相談してみてください。かかりつけ医がいない場合には、各市町村が作成している「認知症ケアパス」にも専門医療機関の掲載がありますのでご覧ください。

認知症とうつ状態の区別

	うつ状態	認知症
発症	週〜月単位で、何らかのきっかけがある	ゆっくりと発症し、特定しにくい
経過	発症後、症状は急速に進行し、日内・日差変動がある	一般的にゆっくりで、変動が少なく、進行性
記憶障害	記憶障害を強く訴える 考えてもわからないと言う 最近の記憶も昔の記憶も同様に障害	記憶障害を否認するが、他覚的にはみられる 考えようとしない 最近の記憶が障害される
答え方	質問に「わからない」と答える	誤った答え、作話をしたり、つじつまを合わせようとする
自己評価	自分の能力低下を嘆く	自分の能力低下を隠す
思考内容	自罰的、自分を責める	他罰的、他人のせいにする
身体症状	不眠、食欲低下など	あまり見られない
気分・感情	気分は日内変動する 悲哀、空虚感	怒りっぽい、感情と一致しない言動がある

（引用：若年性認知症支援ガイドブック）

認知症の種類と特徴



（引用：働きざかり世代の認知症ー仕事と治療を両立するためにー）